

大石地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

記

■ 日時 平成 25 年 8 月 3 日（土）14 時 00 分～16 時 00 分

■ 場所 大石地域交流センター

■ 次第

1. 釜石市長 野田武則あいさつ

2. 最新の土地利用計画について

- ・緊急避難場所まで全幅 5m の道路（240m）を整備し、漁港側からは、全幅 3.5m の避難路を整備予定
- ・避難路は、平常時は歩行者専用道路とし、非常時の車両の通行を可能とする
- ・今後のスケジュールについて

3. 災害危険区域の設定について

- ・対象区域の設定方法（津波浸水シミュレーションより浸水が想定された区域）と規制の対象についての説明
- ・災害危険区域の範囲について（大石地区は第一種区域に指定）

4. 住宅再建支援制度について

- ・現在の自力再建支援制度について
- ・国から追加で分配された基金を活用した、新たな支援制度（釜石市単独被災者住宅再建支援事業補助金、釜石産木材活用住宅推進事業）について

5. 意見交換について

海岸の埋立広場のところは、嵩上げされるのか？

→ 現時点では、特に計画はありません。

大石の沢について、今後、地元協議の結果により災害危険区域の範囲が変わることはあるのか。

→ 防潮堤の高さによっては変わることもあります。

新たに整備予定の緊急避難場所に避難するよりも、今ある道路を遡ったほうが避難しやすいのではないか。

→ 地震直後は今ある道路を使ったほうが早いかもしれません、現状の道路は低いところにあり、浸水することを考慮して、もう一方より、すぐに高台に上がるよう避難路を計画しています。

山の方に避難路（ニュースレター土地利用計画図参照）をつくるよりも、現状の道路を使う計画の方がスムースではないか。

→ 基本的には高いところに逃げてください。避難場所と図にありますが、市として避難場所に指定するつもりはありません。海で仕事している人、逃げ遅れた人の緊急避難場所としてください。

大石地区の平均年齢は70歳。大石小学校跡に公営住宅ができ、仮設住宅を撤去して避難場所としたほうがいい。

→ ご指摘のとおりだと思います。（土地利用計画図の避難場所については）あくまでも一時、緊急避難場所という意味合いで示しました。

大きな地震がきたら高台に必ず逃げるというのは今回わかったこと。津波がくる直前まで海岸にいるのは考えられない。

→ 確かにそのとおりです。津波がきたら直ぐに高台に逃げてください。

避難先の交流センターは狭いので、林業センター位の規模のものを作れないか。

→ 唐丹地域会議でも同じ指摘を受けています。大石の強みは、安全な場所に交流センターがあることです。
高齢者対策、狭いということへの対策を、みなさまと相談しながら検討していくたいと思います。

今回の津波は3月で寒かった。このままでは交流センターに人が入りきらない。

→ 今後、検討していきます。

（東側の避難道を考えると）交流センターが避難所になる。車で避難する人が多いので、大石の坂（現道）を車がすれ違えるようにすべき。

→ 両側に家が張り付いているので拡幅は難しいですが、舗装面の整備は関係者と協議していきます。